

# 一般質問

本定例会の3月5日から4日間にわたり、19人の議員が市政について59項目の一般質問を行いました。その要旨は次のとおりです。紙面の都合上、1人1項目のみ掲載しています。なお、その他の質問項目については、市議会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。



▲市が備蓄しているアルファ米のお粥と乳幼児用ミルク

大規模災害の発生に備えての市の備蓄食糧と家庭での食料品の備蓄について



榎本 議員

**問** 高齢者に対する備蓄食糧について、高齢者が誤嚥性肺炎を引き起こすこともあるが、備蓄している5700食分のアルファ米のおかゆの状態は、ペーパースト状のものではなく、粒感ととろみのあるおかゆで、注水量を変えて柔らかさを調整することが可能なものである。

**問** 乳幼児に対する備蓄食糧について、乳幼児用のミルク1回を200ミリリットルとして1092回分を備蓄しているというのだが、市では粉ミルクと液体ミルクのどちらのミルクを備蓄しているのか。また、粉ミルクの場合はお湯や容器が必要だが、どのような形で乳幼児にミルクを提供するのか。

**答** アルファ米のおかゆは、ペーパースト状のものではなく、粒感ととろみのあるおかゆで、注水量を変えて柔らかさを調整することが可能なものである。

**問** 乳幼児用のミルクはキューブタイプの粉ミルクで、避難所に配備される炊き出し釜やカセットコンロでお湯を沸かし、哺乳瓶に入れて提供することとしている。

**問** 都では、災害時に備えて、液体ミルクの普及を促している。また、普段から使用することで液体ミルクをローリングストックすることもできるので、家庭においても乳幼児の備蓄品としては有効なものと考えるが、液体ミルクを備蓄品とすることへの市の考えは。

**答** 液体ミルクの備蓄については、粉ミルクと比較すると価格が高いこと、容器の廃棄物が多く発生することから、現時点での導入は考えていない。

※茶色く太字になっている用語については10面で詳しく説明しています。

平和で核兵器のない世界をつくるための取り組みについて



山岸 議員

**問** 東京都多摩地域平和ネットワーク会議がつくられた経緯と今後の取り組みは。

**答** 広島市長から平和文化の振興を目的とした多摩地域のネットワーク形成を依頼され、多摩26市が参加して令和5年に結成された。各市ホームページで平和イベント情報などを発信し、平和事業参加を広く呼びかけ、連携した取り組みを検討する予定である。

**問** 1月に確認された平和宣言の内容は。また、令和7年1月に予定されている(仮称)平和サミットの概要は。

**答** 多摩地域に平和文化を根づかせ、平和意識を醸成し、平和文化の担い手を育成すること、多摩地域全体で連携し、取り組みを国内外に発信するというもの。また、戦後80年を迎える令和7年度に多摩地域合同で平和サミットを開催し、子供たちの取り組み発表や体験者・伝承者の講話などを予定している。

**問** 平和で核兵器のない世界をつくることについて市長の認識は。

**答** 稲城市平和都市宣言を制定し、「現行憲法に貫かれた平和の精神をもとに、非核三原則を遵守し、世界の人人々と手を携えて、人類永遠の平和を築くことが私たちの責務です」としている。市民一人一人が世界の恒久平和を願い、連帯感を持って地域社会の形成に臨めるよう平和事業を実施し、平和意識を共有するとともに次世代へ継承していく。

里親制度における養育家庭を増やすための取り組みについて



佐藤 議員

**問** 施設委託中心から養育家庭を含めた里親委託への転換に向け、国も都も取り組みを進めている。養育家庭を増やすための取り組みについては。

**答** 養育家庭を増やすための取り組みは、都が主体として取り組む事業であり、市では、多摩児童相談所と連携し、養育家庭体験発表会のPRや養育家庭に関するチラシ配布などにより普及・啓発を図っているところである。

**問** 市内における養育家庭体験発表会などの里親制度に関する説明会の開催状況については。

**答** 市内における養育家庭体験発表会は、過去3年間毎年開催している。

**問** 制度に関する説明会は、令和2年度は4回、令和3年度は4回、令和4年度は1回開催している。

**問** 里親などの委託率の向上には様々な課題があるが、養育家庭登録数、虐待受理件数、委託数のそれぞれのデータを鑑み、市における養育家庭登録数をさらに増やすための取り組みを何より考えていかなければならないと思う。都が主導して行う事業・取り組みではあるが、市として当事者意識を強く持ち、都と力を合わせて取り組むことが必要であると感じるが、認識は。

**答** 養育家庭を増やすための取り組みについて、引き続き多摩児童相談所と連携し、継続して普及・啓発に取り組んでいく。

「鉄道模型とジオラマの世界」のイベント開催について



つじ 議員

**問** 「鉄道模型とジオラマの世界」が、市内文化センター内児童館のイベントとして開催された。手の込んだ美しい風景とその中を走る鉄道模型やジオラマの世界を一緒に楽しめるようにと取り組んでいただいている。イベントの市における実施状況については。

**答** 「鉄道模型とジオラマの世界」は、令和4年度から開催している。子供たちの参加状況は、令和4年度は第三児童館で行われ、100人の参加、令和5年度は全市立児童館で行われ、第二文化センター児童館で101人、第三文化センター児童館で64人、第四文化センター児童館で264人、城山文化センター児童館で188人、と大勢の子供たちが参加した。

**問** 市のイベントの中で今後の取り組みについては。

**答** 児童館では、多くの子供たちの体験を大切にしたいと考えている。「鉄道模型とジオラマの世界」についても、子供たちの意向を踏まえて考えていく。

**問** 多くの市民に楽しんでもらえる機会として、「Iのまちいなぎ市民まつり」など、大きな会場での開催が有効であると考えますが、見解は。

**答** 「Iのまちいなぎ市民まつり」会場での開催については、各部門および全体実行委員会等で検討する必要がある。新しいイベントの開催要望については、全体の実行委員会に情報提供していきたいと考えている。

持続可能な自治体経営に向けた行政サービスの向上を担う人材の育成と配置について



坂田 議員

**問** 自治体経営に必要な職員確保に対する取り組みについては。

**答** 応募者数の減少などを受け、筆記試験を取りやめ、採用を行っている自治体もあるが、本市はそこまで深刻な状況ではない。応募者数の少ない職種は、市職員がリクレーターとして直接大学に出向き、職員の募集内容などについての説明や、採用に対する協力要請などを行っている。

**問** より質の高い行政サービスの実現に向けた人材育成の取り組み状況については。

**答** 市が持続可能な自治体経営を進めるために、稲城市人材育成基本方針に基づき、各種研修などを通じて、職員一人一人が時代に合わせて能力を発揮できる人材の育成に努めている。なお、新規採用職員には、その所属職員がチューターとなり、おおむね1年間、育成指導を行っている。

**問** 持続可能な自治体経営に必要な行政サービスの向上を担う人材の育成と配置についてどのような施策を展開していくのか。

**答** 人材育成基本方針に基づき、OJTを含む各種研修や自己研さんに努める職員への支援、DXの利活用などを通じ、人材育成を行うとともに、今後はさらに市職員として市民協働や地域貢献などが大切になっていることについても適宜、意識啓発を行っていく。また、職員業績表彰制度や人事考課制度などを有効活用し、職員の意欲向上を促していく。